

最上小国川  
ダム問題

# 建設撤回を求め要請



共産党県議団も同席

3日、「最上小国川の真の治水を求める対策会議」（高嶋昭代表世話人は、最上小国川ダム建設を撤回し、住民との話し合いと合意を求める要請書を県に提出し、日本共産党県議団も同席しました。

対策会議が要請し



要請書を手渡す高嶋氏(右) = 3日、県庁

日本共産党県議団は、この間、専門家による調査結果を踏まえた「ダムによらない治水計画の提言」を発表し、昨年の一般質問でも取り上げてきました。また、『小国川漁協役員のダム建設賛否を県が勝手に色分けし国交省に提出した問題』を取り上げ、提出資料を撤回させました。必要な調査結果や情報を明らかにし、地域住民や関係者の間に十分な議論や検討を保障することが行政の役割と考へます。全国的にも「ダム」との方向が流れてはならないと、今後ともこの立場で取り組んでいきます。

参加者からは、「県は温泉湧出のメカニズムをきちんと調査しないままダム建設を決めた」「県はダム建設に85%の住民が賛成と言っているが民意ではない」などの声がありました。応対した高村土木部長は、「温泉については専門家を入れて調査していく。安全な治水対策や将来のまちづくりの観点が大切と考えている」「地域にしこりや対立を残してはならない。今後とも話し合いはする」と述べました。

こんにちは

**渡辺ゆり子**

2008年6月15日  
第36号  
発行  
日本共産党県議会議員  
渡辺ゆり子  
〈連絡先〉  
日本共産党県議団執務室  
電話 023-630-3241  
自宅:山形市青田2-10-5  
電話 023-642-2365

## 多重債務問題対策は生活再建

「被害者の会」設立に向けたシンホに参加

7日、多重債務の「被害者の会」設立に向けた「調停シンポジウム」が開催され、参加しました。

全国クレサラ・商工ローン調停対策会議などが企画し、弁護士や司法書士をはじめ約90人が集い、体験発表、基調講演、報告、シン

ボジウムと盛りだくさんな内容でした。そこで強調して語られたことは、多重債務の解決はまさに生活再建であること、背景にある貧困に立ち向かうことが求められている点でした。

盛岡市や秋田県の消費生活センターの取り組みが報告されたことや、他県で先行している「被害者の会」の方の発言も、それを裏付けるものでした。弁護士

士、司法書士のみならずの奮闘ぶりもわかり、行政の課題についても考えさせられることが多かったと思います。

県内でも、「被害者の会」設立に向け準備が進められており、協力のよびかけがあります。各地の「被害者の会」は多重債務の解決だけでなく、生活再建のサポートや心のケアに大きな役割を發揮しています。

山形での設立を、おおいに期待したいものです。



## ゆり子の視点

500人の女性の思いあふれる

8日、第38回山形県母親大会に参加しました。

毎年、県内の女性が集まって各分科会で語り合い、それぞれとくんでいる運動の交流をします。いつも涙や笑い、何らかの感動があります。

私は、「住民の願いが届く自治体」の分科会の助言者となっていました。むしる参加した方々から、おおいに元気をもらいました。



中学校給食実現の運動、福祉やまちづくりに関わる熱い思い、足で歩いて一人ひとりよびかけて輪を広げていくその熱意、簡単ににはあきらめない女性の力強さにあふれていました。

初参加の方も、つられてか口頃さえている疑問や要求を口に出す、そんな暖かい雰囲気があります。だから長年続いているのかもしれません。男性の参加者やサポートも目立っていました。こういう運動とともに歩き続けたいと思いました。